

会議議事録

第9回 インフラ自分ごと検討会

日付: 2025年12月19日(金)
時刻: 16:00-18:00
議事録作成者 浅野和香奈

出席者

葉、宮城、浅野、中島、小池、加藤、平野、二瓶、恩田、岩城、力石

議事録

本日の検討事項

①インフラ自分ごとラジオの企画案、②市民がインフラを自分ごととして取り組んでいる事例整理、③インフラメンテナンス総合委員会の改称、④全委員会・会員向けアンケート、⑤分野横断的な公開議論（シンポジウム）の実施について確認・議論する。あわせて今後の予定についても検討する。

議論（抜粋）

① インフラ自分ごとラジオの企画案

浅野：検討会として「インフラを自分ごととして捉えるきっかけづくり」が必要との共通認識を踏まえ、その手段として「インフラ自分ごとラジオ」を企画。専門家の議論や実践、問題意識に気軽に触れられる音声コンテンツを通じ、「明日からできる小さな行動」を見つけてもらうことを目的とする。対象は土木学会員を中心に、学生、技術者、研究者、行政職員、一般関心層までを想定。形式は単独話者・対談・座談会などに固定せず柔軟に運用する。基本は1時間収録を複数回に分割し、月2回配信を想定。

葉：本検討会の設置期間6月まで。予算は3月締め。内容を示せば執行期間を延ばせる可能性あり。

② 市民がインフラを自分ごととして取り組んでいる事例発信

浅野：市民がインフラを自分ごととして捉える必要性が高まる一方、その具体像や専門家との協働事例は十分に可視化されていない。そこで、**市民主体でインフラに関する既存事例を収集・記録し、学会員向けに整理・発信すること**、さらに**インフラ終活を巡る分野横断的な現地検討会を提案**。

③ インフラメンテナンス総合委員会の改称

葉：インフラメンテナンス総合委員会を「インフラマネジメント総合委員会」へ改称する提案を、会長・次期会長・専務理事向けのインフォーマル文書として整理中。改称により、これまで十分関与してこなかった分野の参加を促し、**分野横断的にインフラマネジメントを担う学会内の中核組織を狙う**。八潮事故以降、分野横断的なインフラマネジメントの必要性は共有されているが、**学会内に明確な担い手が存在しない**。新設ではなく既存の委員会を基盤としてすることで、**学会全体に「メンテナンス＝マネジメント」という視点転換を促す効果を期待**している。

④ 全委員会・会員向けアンケート

葉：2024年3月に実施した**全55委員会アンケート**では、**分野横断的な議論の弱さ**が明らかになった。今回、同一設問で再実施し、委員会内の変化も踏まえて前回からの変化を可視化し、学会として議論すべき論点を把握する。結果は**公開を前提**とする。併せて会員向け簡易アンケートも検討し、自由記述をAI等で整理・可視化する。実施時期はシンポジウム等と連動させる。

⑤ 分野横断的な公開議論（シンポジウム）

葉：中島委員案に基づき、学会内外を交えシンポジウムを開催し、検討会の区切りとする。テーマは「インフラの自分ごと」。誰にとっての自分ごとか、市民視点、見える／見えないインフラを整理する。第一部はマーケティング・教育・環境分野からの話題提供、第二部は政策文書や国交省関係者等を踏まえた全体討議とする。

～話題ごとのフリーディスカッション～

●市民がインフラを自分ごととして取り組んでいる事例発信

葉：新規でやる価値はあるが、労力とのバランスや取り組みのフェーズが課題。まずは土木学会員向けを優先。

●インフラ自分ごとラジオの企画案

小池：「自分ごと」は善意に留めず、税負担・料金・合意形成など価値規範まで踏み込むべき。インフラ維持には国民の負担も必要だと学会として明確に示すべき。インフラを社会の在り方の議論につなげる必要がある。

葉：こうした踏み込んだ議論こそ、ラジオのような形式で率直に発信してよいのではないか。

中島：ラジオは即効性より「種まき」。再生数に関わらず議論の起点になる。

浅野：1時間にこだわらず、15～30分でもよい。重要なのは構成。

岩城：新著『日本のインフラ危機』を契機に市民にインフラを自分事として考えてもらう発信を本格化。メディア露出により寄せられる賛否を分析、整理し、委員会成果として還元したい。

中島：新著の紹介も兼ね、岩城委員に早期に出演をしてもらっては。

葉：「インフラ自分ごとラジオ」を検討会名義で正式開始。既録音分を第1回として早期公開し、岩城委員を皮切りに順次展開する。

●インフラメンテナンス総合委員会の改称

葉：委員会名称を「インフラメンテナンス総合委員会」から「インフラマネジメント委員会」へ変更する提案文書を作成した。内容に問題ないのであれば、提案を関係者に早めに共有したい。

岩城：名称変更の趣旨に賛成。国交省第三次提言でも「マネジメント」重視が明確であり、提案に盛り込むと説得力が増す。相談先としては岩波委員、久田委員が適切で、合意が得られれば速やかに進められる。

葉：岩波先生と久田先生に事前相談した上で、池内会長や小澤次期会長、三輪専務に共有する。体制変更是次年度以降を想定しつつ、関係組織には早めに方向性を伝えていく。

●分野横断的な公開議論（シンポジウム）

中島：マーケティング、教育、環境、国土交通省という外部講演者を想定した提案をしたが、詰め込み過ぎは避けたい。結論より問題提起型を想定。ターゲットを絞る必要あり。

葉：予算の繰越は1か月程度が現実的。4月開催、あるいは連休明けを想定する。中島委員の人脈で。

加藤：対象は基本的に学会員想定。一般市民向けにすると設計が大きく変わる。

平野：主対象は土木学会員にすべき。まず技術者自身が「自分ごと化」できていない問題が深刻。

宮城：インフラ管理の区分自体が分かりにくく、専門家でも把握しづらい現実がある。

力石：「自分ごと化できていない個人」を責めるより、異動制度など構造的要因を議論しては。

中島：技術者・公務員向けに「専門外が自分ごとにならない理由」「制度的制約」の2点に絞って再検討。

葉：方向性は「技術者向け」で合意。中島・平野・小池で企画担当。4月中開催を目標に日程・会場（講堂）を早急に調整。

●全委員会・会員向けアンケート

葉：4月シンポジウムに向け、3月に各委員会向けアンケートを先行実施したい。前回結果を共有し、フォローアップとしてやり取りを重ねる。事務局から委員長・幹事長宛に一斉送信。Google フォームで対応する。会員向けアンケートは動きが出てから実施予定。

加藤：1年前（3月）のアンケートと比較できる設問を入れると有益。

浅野：「委員会で扱うインフラの範囲」を聞くのはどうか。消防施設等、総合委員会で対応できない領域があった。

葉：各委員会が対象としているインフラの確認程度でよい。

中島：市民向けアンケートを外部サービス（楽天等）で実施し、インフラ認識を調査しては。→浅野原案作成。

次回のスケジュール確認

葉：参加できていない傍聴者希望者に向けて、議事録公開と今後のアウトプット案内の簡単な連絡を行う。年度内にもう一度会合を開き、3月までに進捗確認したい。